

ふくらまそう!みんなの



男女共同参画って何だろう？

活用について

本書は「男女共同参画」について、子どもたちにわかりやすく漫画形式で構成する冊子です。テーマ別の内容となっており、テーマを絞った活用や他の題材と組み合わせた活用ができます。各テーマの「テーマのねらい」「ポイント・留意点」をもとに、「質問の例」や「参考資料」を織り交ぜることにより学習内容が深まります。 **活用教科等例…道徳、学活、家庭、社会等**

目次

はじめに	1
どうしてくべつするの？	2
おかしいのかな？ いけないのかな？	3
思いやりって、すてき	4
資料 共働き世帯数の推移	5
家の中をチェックしてみよう！	6
資料① 6歳未満の子どもを持つ夫婦の家事・育児関連時間の国際比較	7
資料② 家庭における役割について	8
みんなでやれば楽しいね	9
資料 「男は仕事、女は家庭」という考え方	10
「女の仕事」「男の仕事」ってあるの？	11
資料① 職業別男性割合推移	12
資料② 職業別女性割合推移	13
一人ひとりが大切	14
自分を見つめてみよう！	15
〈資料編〉	
資料① 男女平等についての現在の状況	16
資料② 子どもの教育方針	17
資料③ 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと	18
〈教育・研究の分野における男女共同参画〉	
資料① 学校種類別進学率の推移	19
資料② 専攻分野別に見た学生の男女割合	20
資料③ 研究者に占める女性割合の国際比較	21

男女共同参画啓発副読本活用の手引き(改訂版)

監修 八重澤 美知子(金沢大学名誉教授)/編集 石川県・石川県教育委員会

発行 石川県県民文化スポーツ部女性活躍・県民協働課 〒920-8580 石川県金沢市鞍月 1-1 ☎(076)225-1376 ✉danjo@pref.ishikawa.lg.jp <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kenmin/> (令和6年3月)

はじめに

誰もが共に活躍できる社会を築くためには、男性も女性もすべての個人が、互いにその人権を尊重し、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現する必要があります。石川県では、平成13年に石川県男女共同参画推進条例を制定し、「いしかわ男女共同参画プラン」に基づき男女共同参画社会の形成のための施策を推進しているところです。男性も女性も、仕事だけでなく個人としての多様な活動に参画し役割を持つことが、生涯にわたり豊かな人生をもたらすと考えられ、男性と女性が共に働き方、暮らし方に関する意識の改革を進めることが求められています。しかしながら、今なお社会の様々な分野で、固定的な性別役割分担意識や、それに基づく社会慣行が見られます。そして、それらは知らず知らずのうちに子どもたちの生活習慣や考え方に大きく影響し、個々人の個性や能力を伸びやかに

発揮する可能性を奪い、あらゆる分野の活動に男女が参画することを阻んでしまうことがあるのが現状です。男女共同参画社会の形成には、全ての人々がこのことを正しく理解し、学校、家庭、地域社会などあらゆる場において努力する必要があります。特に、子どもたちが思いやりの心を持って、性別に関わりなく自分らしい生き方を選択できるようにするためには、家庭での教育とともに学校での教育が大変重要になります。この男女共同参画啓発副読本「ふくらまそう！みんなの夢風船—男女共同参画って何だろう？—」は、自分の性や異性を意識し、遊び等で男女差が現れ始める小学校高学年の子どもたちに、男女共同参画について考える機会を持たせることを目的に作成しました。将来を担う子どもたちに、この男女共同参画啓発副読本を通して、男女共同参画社会を築いていく力を、自然な形で身につけてほしいと願っています。

どうしてくべつするの？

【テーマ】 家庭での性別役割分担意識の形成

【テーマのねらい】

大人は、子どもと接するとき「女の子だから」とか「男の子だから」と、性別によって対応の仕方が異なりがちである。その結果、性別役割分担意識は、幼少の頃から家庭・学校・地域社会の中で長年にわたり、知らず知らずのうちに形成されていく。

ここでは、日常の一場面を通して、性別役割分担意識がどのように形成されていくか気付かせるとともに、児童自身に、そのような意識はなかったか振り返らせ、性別に関わらず自分らしさを大切にしようとする気持ちを持たせる。

質問の例	ポイント・留意点
<ul style="list-style-type: none">●家の人から、「女(男)の子だから…」と言われたことがありますか。●どんなことを言われましたか。その時どう思いましたか。	<ul style="list-style-type: none">●「女(男)の子だから…しなさい」、「女(男)の子だから…してはだめ」と言われたことがないか思い起こさせる。●言われたことに対して、疑問を持ったことや反論したいと思ったことがないか話し合いを深める。●「女(男)らしく」よりも、人間としてどうあればよいのかという偏りのない視点を持つきっかけにする。

キーワード

男女共同参画社会

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のことです。

固定的な性別役割分担意識

「男は仕事、女は家庭」「男は主、女は従」などに表されるように、性別によって適した役割や能力、活動する分野があり、それを分担し合うのが当然だとする固定観念をいい、その時代や地域の慣習・慣行、法制度など社会構造とも密接に結び付いています。

近年では、女性の社会進出により「男は仕事、女は家庭も仕事も」という「新たな性別役割分担」の問題も生じてきています。

おかしいのかな？ いけないのかな？

【テーマ】 男らしさ、女らしさ

【テーマのねらい】

体格や体力には個人差があり、男の子が勝っている場合もあればその逆もある。

また、生きものをいたわる気持ちにも個人差が見られ、男女で差があるとは考えられない。

充実した生活を送るためには、社会的・文化的に形成された性別（ジェンダー）よりも、ひとりの人間として相手の個性や能力を認め、評価する考え方が大切であることを理解させる。

質問の例	ポイント・留意点
<ul style="list-style-type: none">●「女のくせに」とか「男のくせに」とか言われたことがありますか。●どんなことを言われましたか。その時どう思いましたか。●学校内で男だけがしていること、女だけがしていることが何かありますか。あるとすればそれはどうしてでしょう。●学校で、自分が「女(男)の子だから」という理由で、したい(言いたい)ことをやめたことはありませんか。	<ul style="list-style-type: none">●学校内の色々な場面で、子どもたちの意識の中に、性別役割分担意識が働くようなことはないか考えさせる。●学校生活を豊かなものにするために、「男だから」「女だから」という意識に捉われず、一人ひとりが一つの「人」として、お互いの個性や能力を認め合い、伸ばし合うことが大切であることを気付かせる。

資料 < 社会的・文化的に形成された性別（ジェンダー） >

人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）という。

「第5次男女共同参画基本計画 用語解説」より抜粋

思いやりって、すてき

【テーマ】 家族間の思いやり

【テーマのねらい】

令和2年度に石川県が実施した「男女共同参画に関する県民意識調査(以下「県民意識調査」という。)」では、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、全体では『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を上回り、男女別でも同様の結果である。従来の固定的な性別役割分担意識からの改善傾向はみられるものの、依然として男性と女性の意識には差がある(p.10 **資料** 参照)。その理由の1つには、家事、育児、介護を担っている多くは女性であることがあげられる。

共働き家庭が増える中で、安心して子どもを産み育てるためには、家族が支え合うことが大切である。

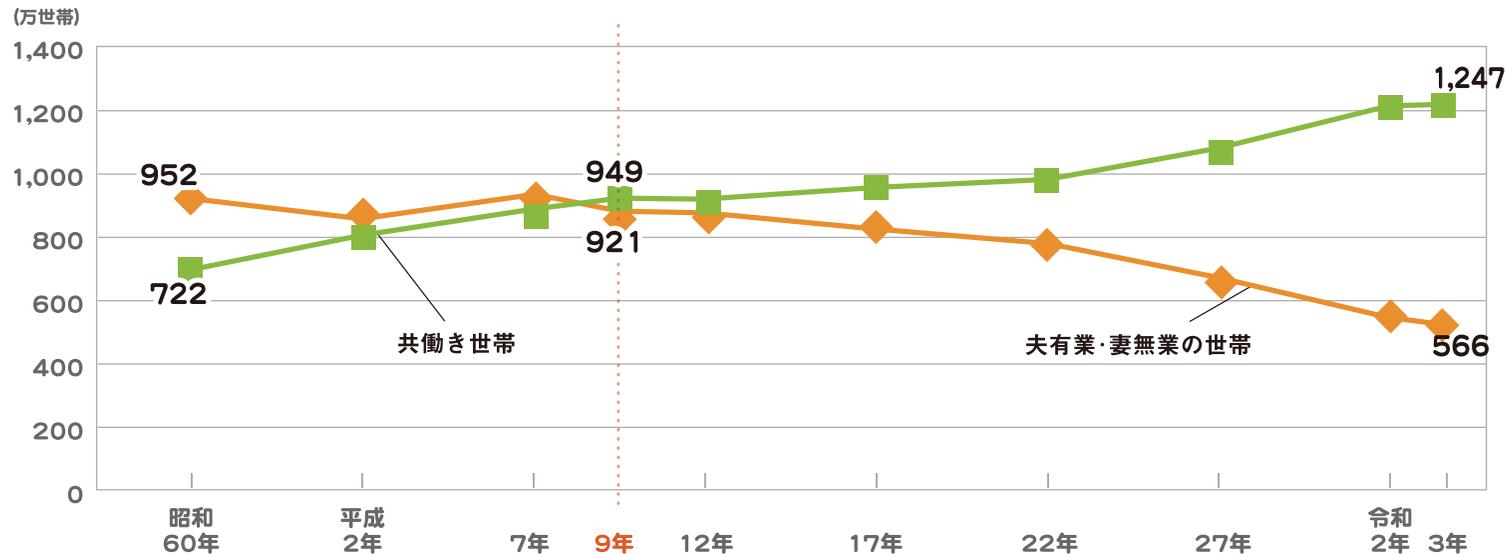
ここでは、家族が性別に捉われることなく協力し助け合うことを通して、生き生きと暮らすために、家族一人ひとりが家庭の中で何ができるのかを考えさせる。

質問の例	ポイント・留意点
<ul style="list-style-type: none">● 家族の誰かが風邪をひいたり病気に かかったりしたとき、誰が看病していますか。● 家族で助け合ったり、協力したり したことはありますか。● 家族のために、あなたができることは ありませんか。	<ul style="list-style-type: none">● 家族の誰かに家事が集中していないか。もしそうなら、自分にできることを考えて、積極的に家事に参加するよう促す。● 家族が困った時、助け合うことで、お互いの立場や気持ちが理解でき、いたわり合うことの大切さに気付かせる。● 母子家庭、父子家庭等の児童には十分配慮し、自分が母親(父親)や祖父、祖母、きょうだいなど家族から愛されていることに気付かせる。● 思いやりの心を持って助け合う中で、子どもたちの生活面での自立を促す。

思いやりって、すてき

資料 < 共働き世帯数の推移 >

総務省「労働力調査」ほかより



平成9年以降、共働き世帯数は夫有業・妻無業世帯数を上回り、
令和3年では共働き世帯が夫有業・妻無業世帯の約2倍となっています。

家の中をチェックしてみよう！

【テーマ】 家庭での自立

【テーマのねらい】

家庭の中には、生活していくうえで必要な様々な役割がある。

令和3年に総務省が実施した「社会生活基本調査」によると、「家事・育児・介護等」の活動を行う時間は女性の方が圧倒的に長くなっている。

(p.7 **資料①** 参照)

児童が自分の家庭を振り返り、家庭の中にはどのような役割があるのか、また誰がどのくらいしているのかを知ることによって、性別による役割分担意識に捉われず、男女が協力し合って家事を行うことの大切さに気付かせる。

また、子どもも家族の一員として家事を進んで担うよう、生活面での自立を図っていく。

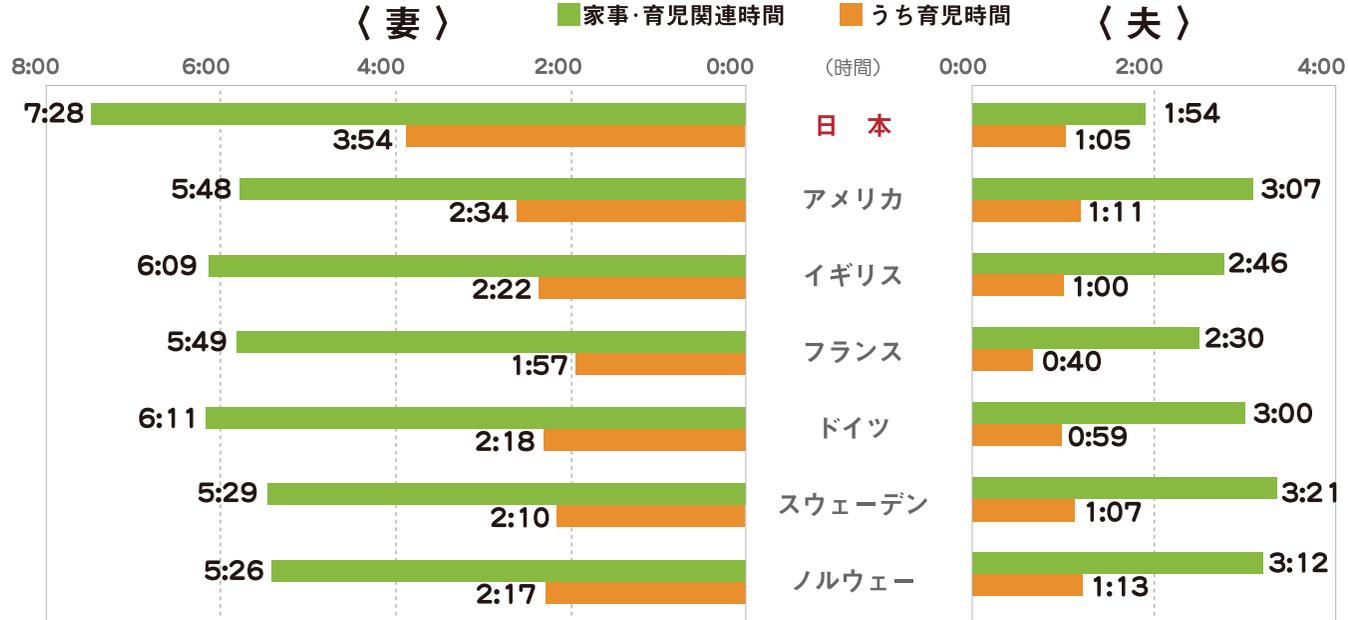
質問の例	ポイント・留意点
<ul style="list-style-type: none">●家事にはどのようなものがあるか、みんなで考えてみましょう。●女性が家事をたくさん分担しているのはなぜでしょうか。●みんなの家では、どのように家事分担をしていますか。自分ももっとできることはないでしょうか。	<ul style="list-style-type: none">●家庭での仕事の多くを女性が担っていることに気付かせ、家庭での会話や様子を思い起こしながら、家事を担っている人の気持ちを考えさせる。●家事、育児、介護などの家庭責任を、性別に関わらず家族が担っていくことが大切であり、小さなことも含めそれぞれの家庭に応じた家事の分担に改めていくことが大切であると気付かせる。●自分の身の回りのことで、家族まかせにしていることはないか、何ができるかを考えさせ、生活面での自立を促す。

家の中をチェックしてみよう！

資料①

〈 6歳未満の子どもを持つ夫婦の家事・育児関連時間（1日あたり）の国際比較 〉

総務省「令和3年社会生活基本調査」ほかより

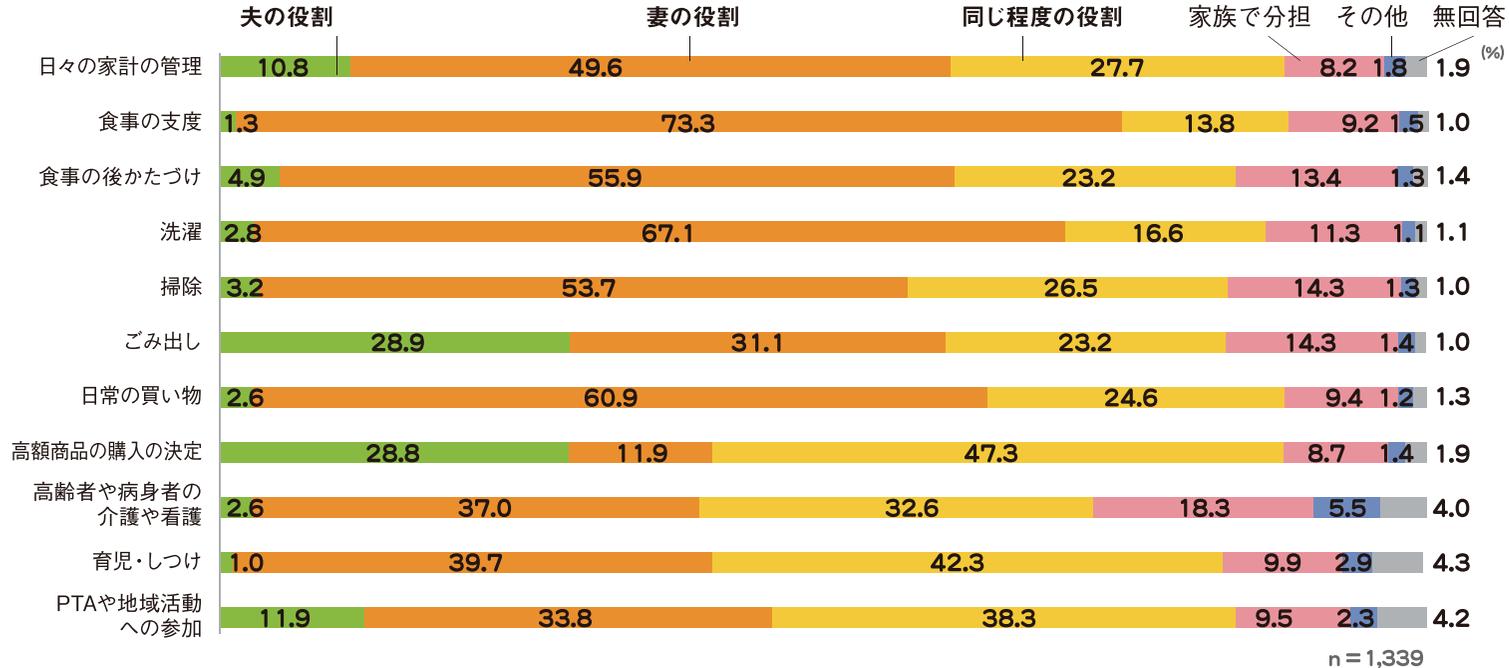


家の中をチェックしてみよう！

資料②

◀ 家庭における役割について ▶

石川県「男女共同参画に関する県民意識調査」(令和2年度)より



みんなでやれば楽しいね

【テーマ】 男女の協力、思いやり

【テーマのねらい】

学校生活においても社会全体の性別役割分担意識の影響を受ける。「男子がすること」「女子がすること」と区別することは、「性による違い」を強調することになり、女子と男子は違うのだという見方を無意識に植え付ける原因にもなっていく。

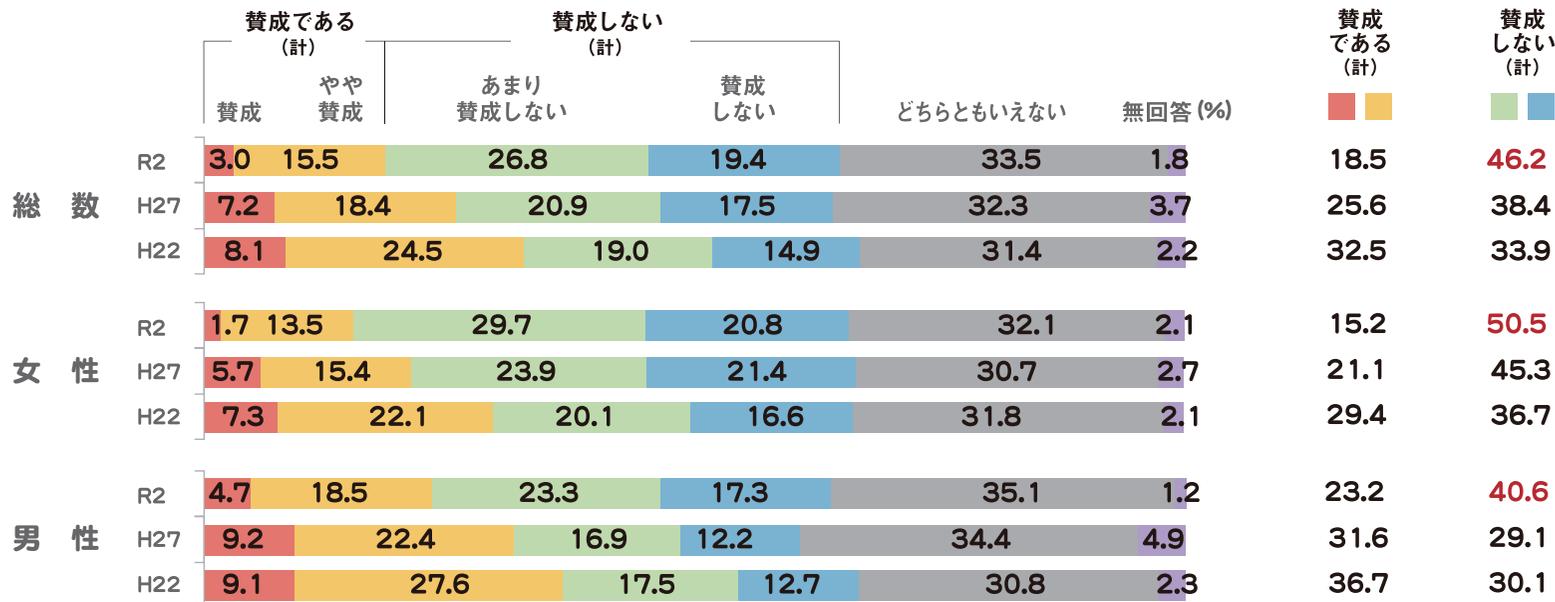
性別にこだわらず、みんなが協力することは、楽しいことであり、その結果もより満足できるものになることに気付かせる。

質問の例	ポイント・留意点
<ul style="list-style-type: none">●これまでどのようなことを、みんなで力を合わせ協力しましたか。その時どういう気持ちになりましたか。●男女間で意見が対立したことがありますか。それはどういう時ですか。意見が対立した時、どのようにするとうまく解決できるでしょう。	<ul style="list-style-type: none">●みんなで力を合わせ、協力することの喜びに気付かせる。●「協力」するためには、お互いの立場や気持ちを知ることが大切であること、また協力することで、人間として大切な思いやりの気持ちも育まれることを思い至らせる。

みんなでやれば楽しいね

資料 < 「男は仕事、女は家庭」という考え方（経年比較） >

石川県「男女共同参画に関する県民意識調査」(令和2年度)ほかより



「女の仕事」「男の仕事」ってあるの？

【テーマ】 将来の生き方

【テーマのねらい】

職業のほとんどは、性別に関係なくできるものであり、近年では、これまで男性の分野とされていた職場への女性の進出や、女性の分野とされていた職場への男性の進出が見られ、男女とも活躍していることを理解させる。

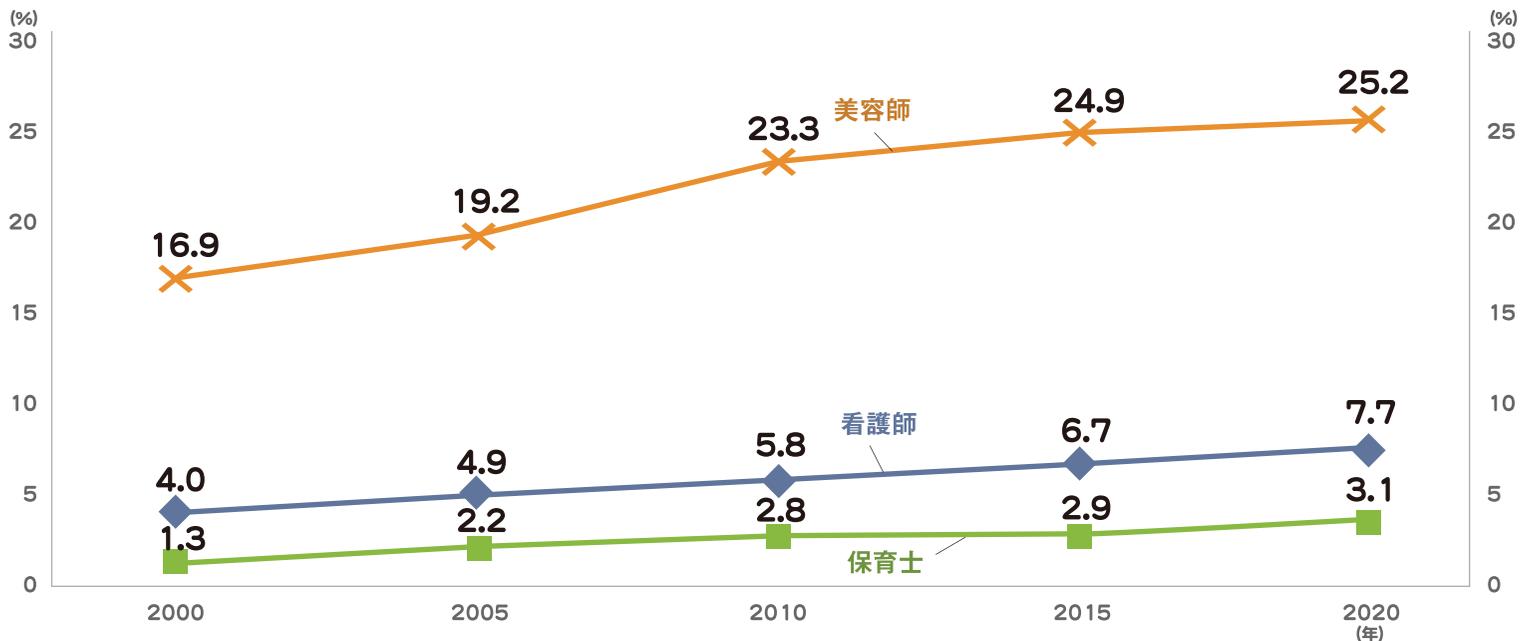
そして、性別に捉われずに一人ひとりが、自分の能力や適性にあった職業を選択し、男女がともに社会を築いていくという意識を高める。

質問の例	ポイント・留意点
<ul style="list-style-type: none">●「男の仕事(職業)」「女の仕事(職業)」ってあると思いますか。あるとすれば、それは女(男)の人にはできない仕事だと思いますか。●あなたは将来どんな仕事に就きたいですか。	<ul style="list-style-type: none">●固定的な職業意識に関して、「おかしいな」「女も男も一緒なのに」という子どもの気持ちを引き出す。●一人ひとりが自分の良さや自分らしさを自覚し、「男だから、女だから」という理由で職業を選ぶのではなく、本当にやりたい仕事を選択することが大事であることを理解させる。

「女の仕事」「男の仕事」ってあるの？

資料① ◀ 職業別男性割合推移 (男性割合の少ない職業)【2000年～2020年】 ▶

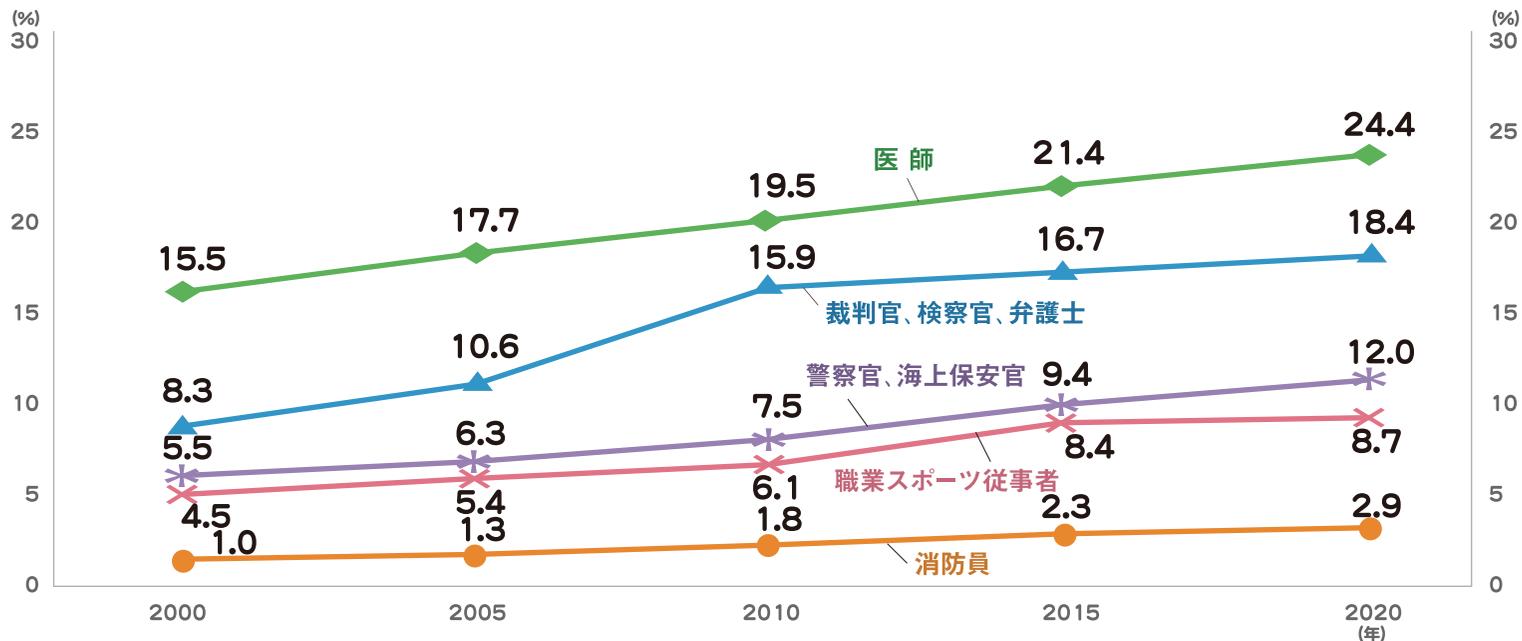
総務省「令和2年国勢調査」より



「女の仕事」「男の仕事」ってあるの？

資料② ◀ 職業別女性割合推移 (女性割合の少ない職業)【2000年～2020年】 ▶

総務省「令和2年国勢調査」より



一人ひとりが大切

【テーマ】

個人の尊厳

【テーマのねらい】

今日の社会は、まだまだ男性中心の社会であり、女性が人生を前向きに生きようとする、男性には感じられない窮屈さや困難さがある。

人間は、何よりも先に個人が一人ひとり等しく尊重されなければならないことを子どもたちに知ってもらおう。赤ちゃんからお年寄りまで、年齢、性別、健康の程度、能力、考え方、生き方など違っていても、皆同じ人間であり差別されることがあってはならない。

また、この地球には、異なる歴史や文化を持った多くの国々があり、大勢の人々が暮らしている。紛争等で悲惨な現実があるが、本来、命の重さに差異があってはならないという考えを深めさせる。

質問の例

●皆が、一人ひとり自分らしく、そして仲良く生活できるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

●「相手の立場に立って考える」ことがありますか。それはどんな時ですか。

ポイント・留意点

●人は、だれでも家族、学校の先生や友達だけでなく、社会の様々な人たちと支えたり支えられたりしながら生きていることを伝える。

●家庭では、家族が助け合って生活している。社会では、大勢の人が皆、気持ちよく生活できるように、ルールやマナーを守って生きていることに思い至らせる。

●地球上には、異なる歴史や文化を持った多くの国々があり、大勢の人々が暮らしている。人類が皆、平和に暮らせるよう、様々な努力がなされていることに気付かせる。

●周りの人を思いやることができる人は、人を差別しないし、人の命・人の尊厳を尊重する心豊かな人であることを理解させる。

自分を見つめてみよう！

【テーマ】

自己肯定感

【テーマのねらい】

一人ひとりには違いがあり、それはかけがえのない「自分らしさ」に気付くことである。自分はどのようなことが好きなのか考えたり、自分のよいところを他の人から聞いたりする活動を通して、「自分らしさ」を感じ、自分の存在への肯定感を高める。

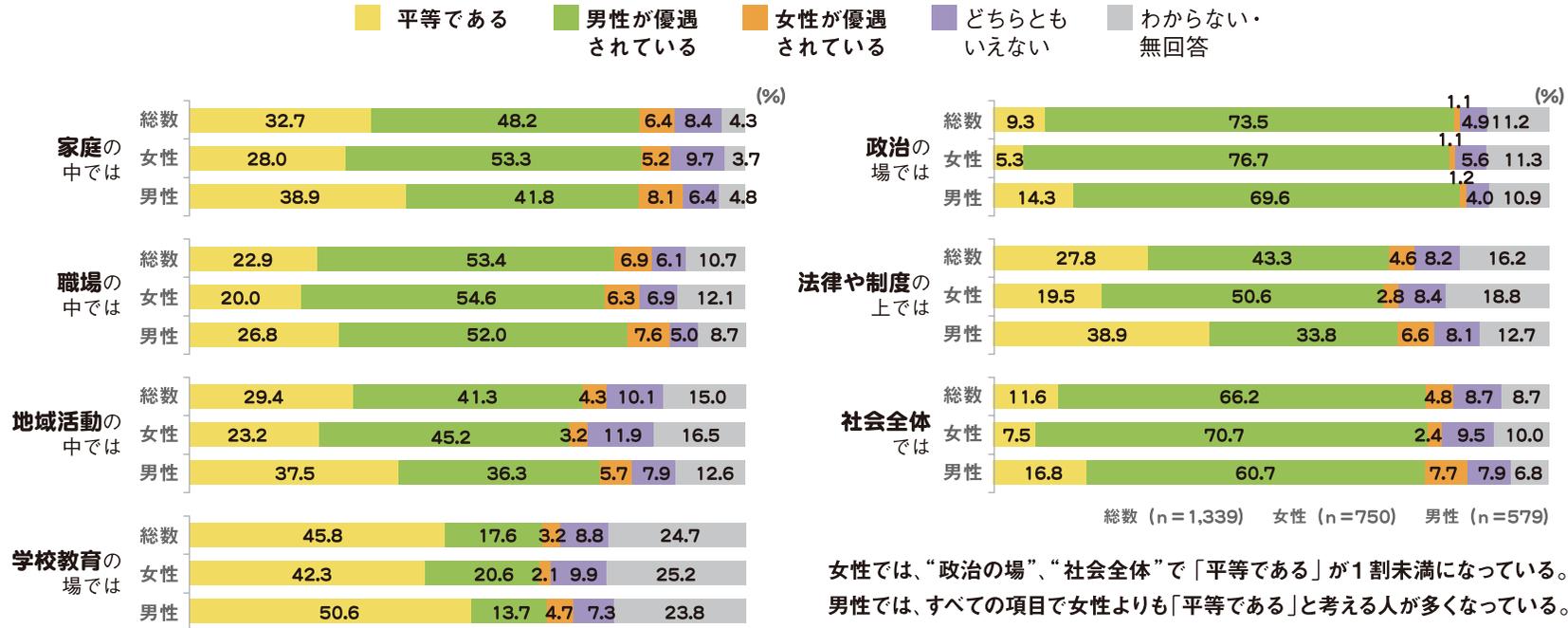
また、周りの友だちを知ることにより、お互いに認め合うことの大切さに気付く。

「自分らしさ」を大切にすることで多様な生き方ができるよう、自分も他人も、人として一人ひとりが等しく尊重されなければならないことに思い至らせる。

質問の例	ポイント・留意点
<ul style="list-style-type: none">●あなたは今、何に関心を持っていますか。どのような夢を持っていますか。●夢の実現に向けて取り組んでいることや、これから取り組もうとしていることはありますか。●隣の人のよいところ、素敵などころはどんなところですか。●隣の人が夢の実現に向けて取り組んでいることや、これから取り組もうとしていることを聞いて、どう感じましたか。●自分のよいところ、素敵などころを聞いてどんな気持ちですか。	<ul style="list-style-type: none">●自分についてなかなか書けない子にも、興味・関心を引き出せるようなヒントを与える。●他の人の「自分らしさ」を知ったり、肯定的に捉えたりすることにより、他の人の大切さも認めようとする気持ちの育成につなげる。●他の人から自分のよいところを伝えてもらうことで、“自分の知らない自分”を発見し、自己理解を深めさせる。●一人ひとりの個性を生かしながるとともに協力し合って社会を作っていくことの大切さに触れ、男女共同参画社会について考えさせる。

男女平等についての現在の状況

石川県「男女共同参画に関する県民意識調査」(令和2年度)より作成

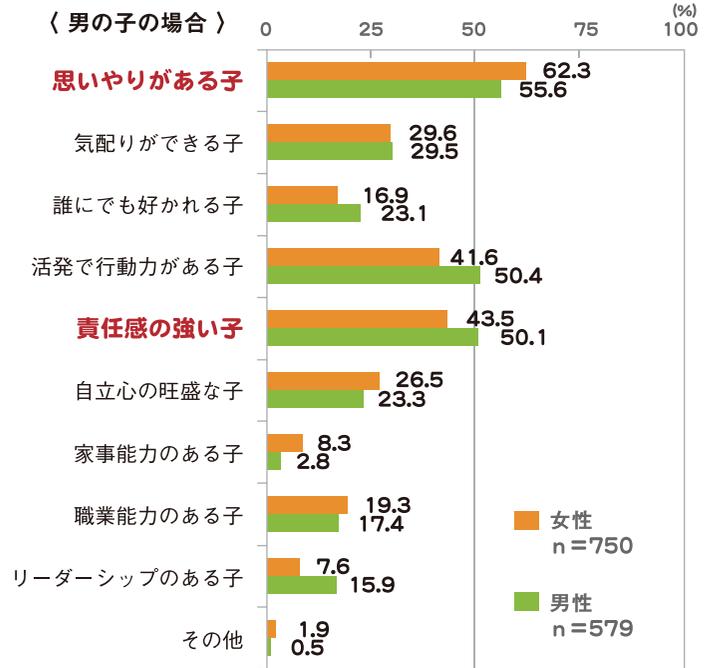
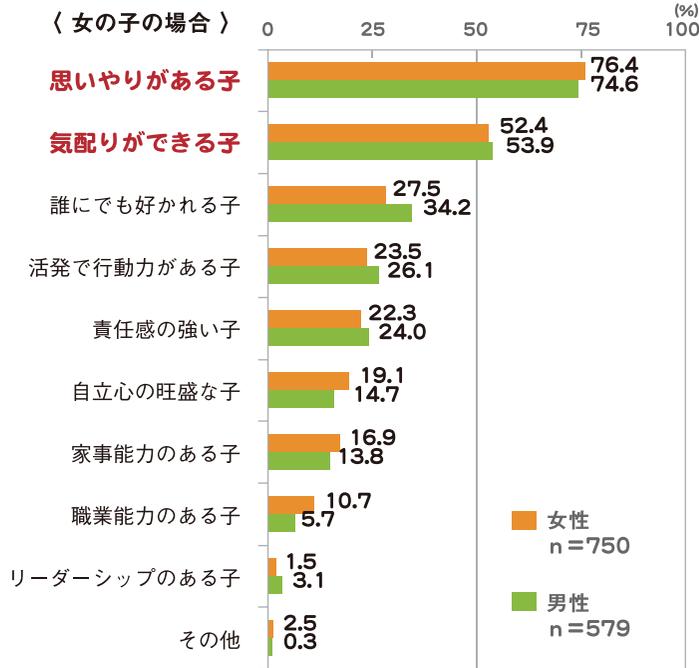


女性では、“政治の場”、“社会全体”で「平等である」が1割未満になっている。男性では、すべての項目で女性よりも「平等である」と考える人が多くなっている。特に差が大きいのは、“法律や制度の上”で、女性を19.4ポイント上回っている。

子どもの教育方針

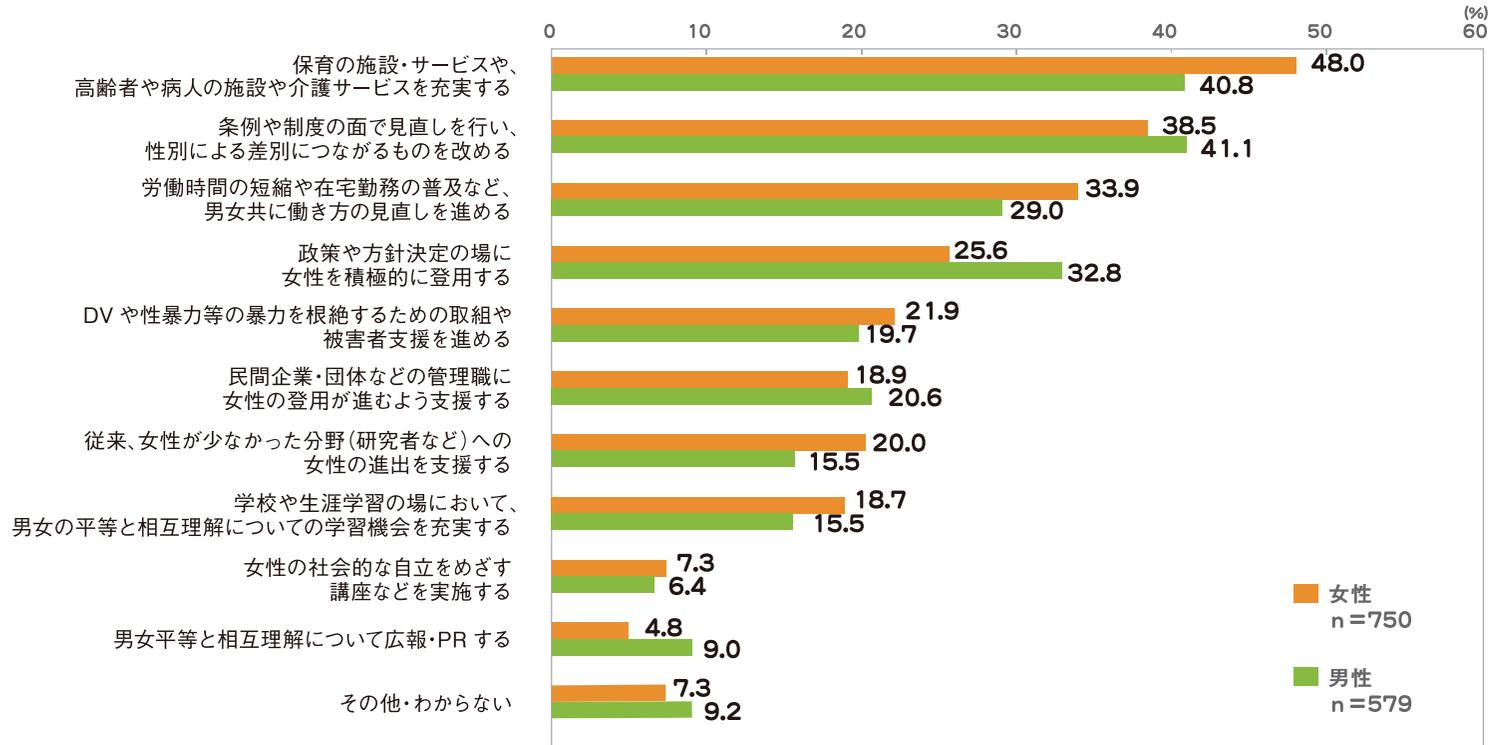
石川県「男女共同参画に関する県民意識調査」(令和2年度)より作成

女の子には「思いやりがある」「気配りができる」を、男の子には「思いやりがある」「責任感の強い」をより求める



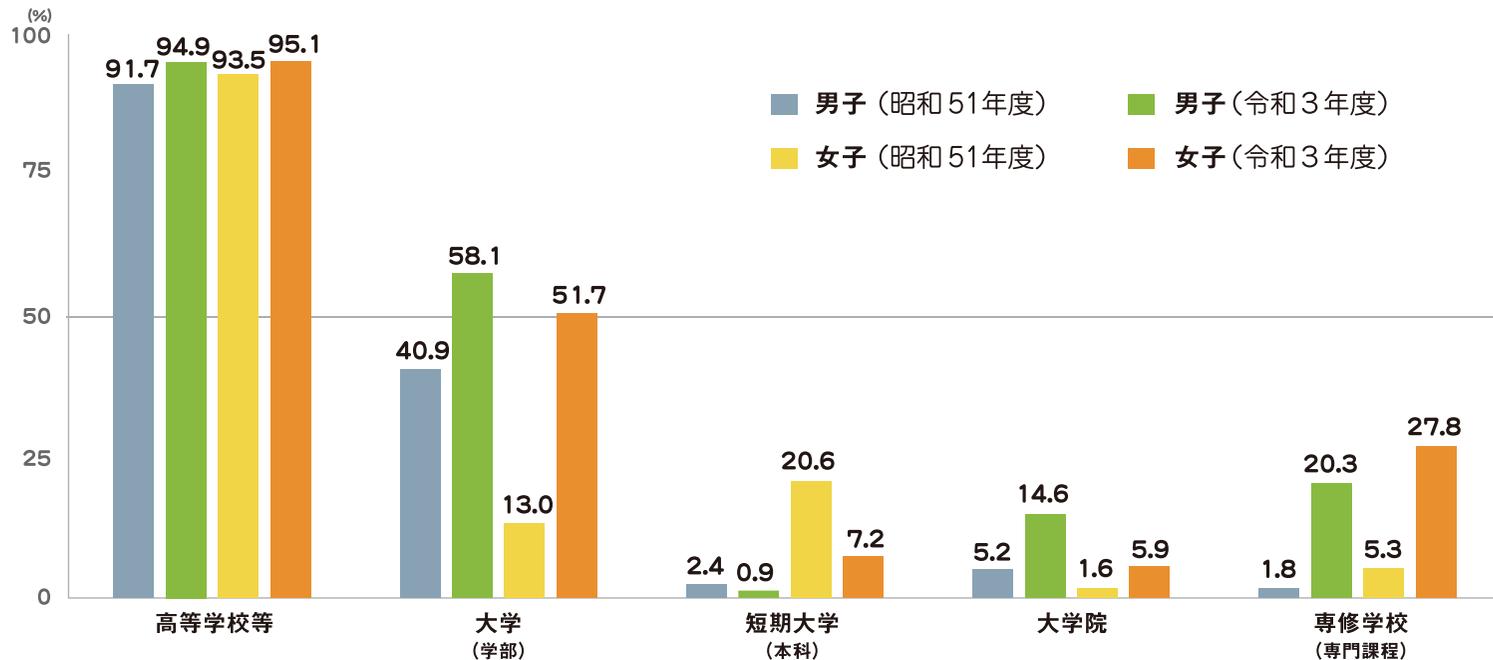
男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

石川県「男女共同参画に関する県民意識調査」(令和2年度)より作成



資料① < 学校種類別進学率の推移 >

文部科学省「学校基本調査」より



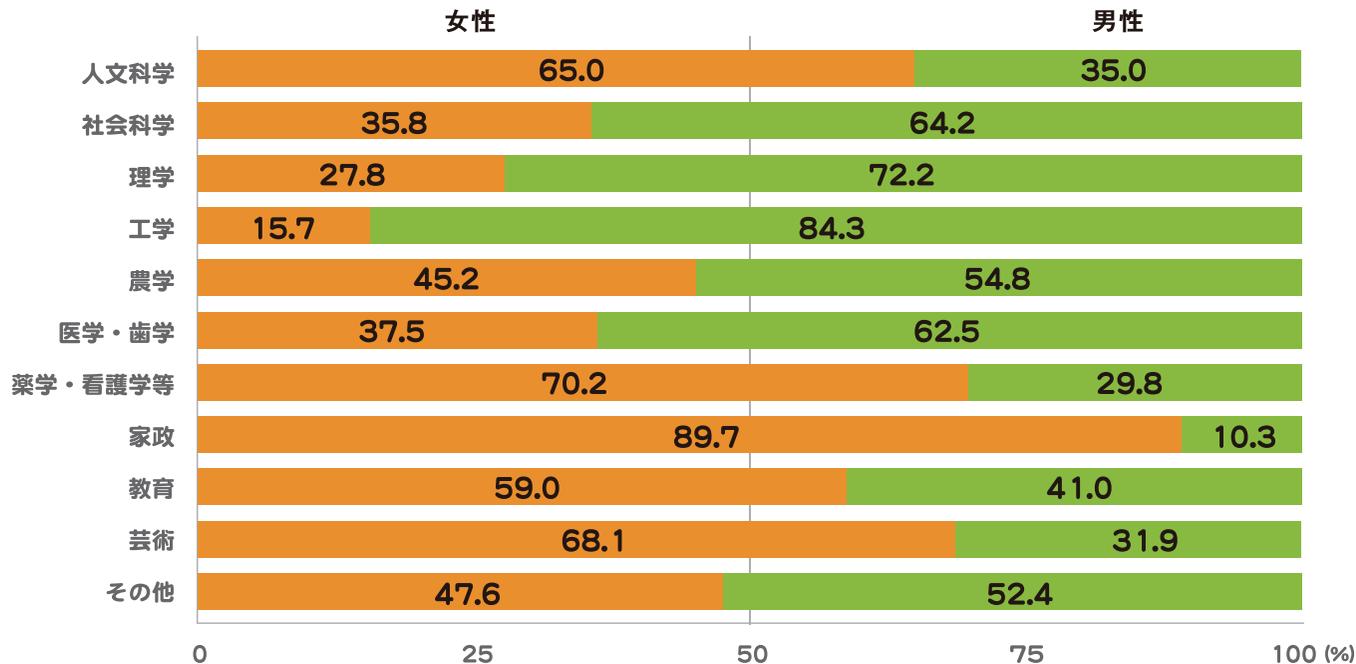
教育・研究の分野における男女共同参画

資料編

資料②

専攻分野別に見た学生（学部）の男女割合

文部科学省「令和3年度学校基本調査」より



資料③

研究者に占める女性割合の国際比較

総務省「科学技術研究調査」(令和3年)ほかより

